

## 特定非営利活動法人鶴川落語会 設立趣旨書

落語は江戸時代に広まり、明治大正昭和平成と長きにわたり生き残ってきた大衆芸能です。戦後はラジオ各局が落語および演芸を毎日放送し、老若男女誰もが楽しめる身近な芸能でした。現在はテレビやラジオで見られる機会が減り、伝統芸能の一角に位置付けられることで、敷居が高い印象を持たれています。直接会場で鑑賞したことがあると答えた方は、演芸（落語、浪曲、漫才など）に関してはわずか7.7%で（文化に関する世論調査：文化庁 平成30年11月調査）その数はここ20年ほど変わることなく推移しているのが現状です。その反面、落語家になる人は増加の一途で、若手落語家の育成、活動の場の提供は喫緊の課題となっております。

鶴川落語会はこれまででも、任意団体として町田市を中心に落語および寄席演芸の普及、若手落語家の育成に取り組んでまいりましたが、一部の元々の落語および演芸ファンにしか情報が届かないジレンマと、新たに興味を持って足を運んでいただくことの難しさを感じてきました。落語ブームと言われている現在でも、落語会や寄席の顧客は60歳以上の方々が大半で、子どもの頃に馴染みのなかった50歳以下の方々は、落語および寄席演芸へ関心を持つ機会にすら恵まれない環境にあります。このままでは、落語および寄席演芸は、衰退の一途となってしまいます。

しかし、この辺の薄い現代社会において、家族や友人はもちろん、その場にたまたま居合わせた人たちと肩を並べ、笑い合ったり、温かな気持ちになったり、人情に涙したり、そういう感情を共有する体験は、人々の心を癒し、励まし、生きる活力を与えてくれるものになると確信しております。

また、落語という日本独自の話芸を残していく保全活動は、地域の枠を超えて取り組むべき課題であり、急務と考えます。脈々と継承されてきた芸と時代のニーズに柔軟に対応することで生まれる芸、そうした芸を楽しむ観客の存在、そしてその芸を観客へ届ける存在、それぞれがバランスよく機能することが大切です。その中で、若手落語家を継続的に支え、育む環境の提供も行っていく必要があります。

それらを実現するにあたり、任意団体としての活動では信用力がなく、普及啓蒙活動に限界を感じてきました。今後は、多くの方が参加しやすい団体として認知され、広く一般市民への普及活動、例えば、学校や医療現場、自治体や企業主催の落語会の開催等により注力できる、特定非営利活動法人として活動していくことを選びました。

落語および演芸の一般市民への普及啓蒙、伝統芸能としての保全および継承、若手の育成に取り組むことにより、より豊かで生活に根ざした文化的な社会の実現を目指します。

### 申請に至るまでの経過

平成13年11月	落語in風の谷開催（学校寄席）年に1回開催で継続中
平成25年3月	任意団体「鶴川落語会」発足
平成25年3月	第一回鶴川落語会 らくご@鶴川開催
平成26年5月	川崎フロンターレとのコラボ企画「勝点」協力
平成29年4月	柳家小はぜ勉強会其の一開催（若手落語家勉強会）年に6回開催で継続中
平成30年11月	第三十六回鶴川落語会をもって、らくご@鶴川一旦休会
令和元年11月	特定非営利活動法人鶴川落語会の設立を有志で確認
令和元年12月	第三十七回鶴川落語会 らくご@鶴川再開
令和元年12月	特定非営利活動法人鶴川落語会の設立総会開催

令和2年1月18日

設立代表者 住所又は居所

東京都町田市能ヶ谷2丁目25番6号

鶴川アーバンライフ304

氏名 今野瑞恵 印